

第 60 回研究発表会 若手優秀発表賞 受賞者

第 60 回研究発表会および現地見学会実行委員会
事業計画部

北海道大会において研究発表していただいた若手発表者（申込時の年齢が満 35 歳以下）の中から、以下の方々を優秀発表者として表彰することといたしました。受賞者には、実行委員会より賞状と副賞を贈呈いたします。また受賞者による当該テーマに関する学会誌論文投稿優遇措置*を設けておりますので、研究成果の投稿をぜひお願いいたします。

■若手優秀発表賞 受賞者

【口頭発表部門 五十音順】

- ・宇佐見 星弥（日本大学）
「LiCSBAS を用いたネパール・マルシャルディ川沿岸の地すべり性地表変動観測」
- ・大澤 宗一郎（群馬大学）
「千葉県富津市の自然斜面での地すべり実験に対する弾粘塑性 FEM 解析」
- ・北村 七葉（群馬大学）
「平成 30 年北海道胆振東部地震における Ta-d 降下軽石風化部のひずみ軟化挙動に起因する地すべりの力学的検討」
- ・グエン ヴァン タン（群馬大学）
「Simulation a terrific landslide on 18 October 2020 in Quang Tri Province, Vietnam」
- ・松永 隆正（北海道大学）
「積雪・融雪状況の再現計算に基づく 2021 年 3 月 3 日新潟県糸魚川市来海沢地区での融雪地すべり発生要因の検討」

【ポスター発表部門 五十音順】

- ・青木 綾乃（新潟大学）
「航空レーザーデータと差分干渉 SAR 解析を用いた新潟県蓮華温泉周辺における地すべりの移動量の検出」
- ・神野 郁美（国土防災技術株式会社）
「サイフォン式汲み上げによる多点温度検層の実施例」
- ・輿水 健一（北海道立総合研究機構）
「沖積錐分布に基づく決定木分析を用いた潜在的な土石流危険流域の抽出」

■審査方法

【口頭発表部門】

候補者 23 名（学生 15 名、社会人 8 名）に対して、事前審査と当日審査を行った。事前審査は、候補者 1 名あたり 3 名の審査員により、講演要旨に対して 3 つの項目（研究内容、研究レベル、原稿の完成度）について 5 段階評価で採点した。事前審査結果をもとに、候補者を上位 15 名に絞り込んで当日審査を行った。当日審査は、候補者 1 名あたり 2 名の審査員により、発表のわかりやすさ、質問に対する回答の的確さ、研究に関する理解度・貢献度などについて評価を行った。

事前・当日審査の合計点をもとに、実行委員長・事業計画部長が表彰者を決定した。結果的に、合計得点上位の 5 名を表彰者とした。

【ポスター発表部門】

候補者 10 名（学生 6 名、社会人 4 名）に対して 4 名の審査員が、事前審査と当日審査を行った。事前審査は、講演要旨に対して 3 つの項目（研究内容、研究レベル、原稿の完成度）について 5 段階評価で採点した。また、当日審査は、3 つの項目（研究内容、ポスターの出来栄、発表態度）について 5 段階評価で採点した。オンラインでのポスター発表・審査は今回初めての試みであり、従来のように 1 枚のポスターで説明される方、資料を使ってパワーポイントのように説明される方いろいろあったが、発表方法に左右されず、研究の内容・理解度・発表態度などについて厳正な審査を行った。

事前・当日審査の合計点をもとに、実行委員長・事業計画部長が表彰者を決定した。結果的に、合計得点上位の 3 名を表彰者とした。

なお、本表彰は、ポスター部門、口頭部門それぞれ、複数回の表彰を行わないこととしているが、昨年度の山梨大会では口頭 / ポスターの区別なしで審査・表彰を行ったため、山梨大会での若手優秀発表賞受賞者も、本大会における候補者・表彰者に含めるものとした。

■審査員 五十音順

石川 達也、伊東 佳彦、稲葉 一成、岩佐 卓実、宇次原 雅之、大村 泰、加来 哲也、
桂 真也、加藤 大佑、倉橋 稔幸、小林 豊、相楽 渉、佐藤 剛、竹下 航、土志田 正二、
村上 亘、茂木 俊

* 学会誌投稿優遇措置

受賞者が筆頭著者として、受賞した発表に関連する内容の原稿(原稿区分は問わない)を日本地すべり学会誌に投稿する場合、その費用が免除される(ただし、カラーページ費用、超過ページ費用、別刷費用は免除対象に含まない)。優遇措置を受けられる期間は受賞から 3 年間である。受賞者にはこれを機に研究成果の投稿をお願いしたい。

以上